

# 「墓泥棒」遺族訴える

ガマフヤー

## 具志堅氏ら国と交渉



太平洋戦争末期の沖縄の戦没者を悼む「慰霊

遺骨が混じる土砂を前に防衛省担当者に訴える具志堅氏

の日に、沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」の具志堅隆松代表や遺族らと国の意見交換会が18日、東京・永田町の衆院第一議員会館で開かれた。父が亡くなったとされる洞窟にお参りしているという沖縄戦の遺族は「あそこは私たちがとってお墓。あなたたちは墓泥棒をしようとしている」と訴えた。

沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設の埋め立てに使う土砂の調達先に沖縄戦の激戦地だった本島南部が含まれる問題で、具志堅氏らは計画の撤回を求めている。本島南部・糸満市の摩文仁の丘下の洞窟付近で戦死した父の遺骨が見つからない福岡市の高向洋子さんは「洞窟のそばに孫を連れてお参りしている。あなたたちは墓荒らしをしようとしている」と非難した。

具志堅氏は23日の慰霊の日に、岸田文雄首相が戦没者を追悼しながらも、遺骨の混じる土砂を米軍のために使うのは矛盾だと指摘。岸田首相が沖縄を訪れるならば計画を撤回すべきだと述べ、「撤回を表明しないなら、抗議のハンカーストライキに入る」と20日から慰霊の日までハンストを行うと迫ったものの、防衛省担当者は「ご遺骨の問題は真摯に受け止める必要がある。こうしたことを踏まえながら適切に事業を進めていく」と明言を避ける従来の回答を繰り返した。

具志堅氏を支援する上田慶司氏は「適切」とする言葉の意味を巡り、戦没者の遺骨が残る土砂を海に投入することに對する防衛省の認識を追及。担当者は「持ち帰りたい」と回答を避け、意見交換会を主催した日本共産党の赤嶺政賢議員の事務所に返答するとした。

安倍晋三元首相の銃撃事件を受け、昨年の慰霊の日に大規模な警備態勢を敷いたことで、交通規制により高齢者が会場に行くのが困難になったことなどから、遺族による追悼よりも要人警護が優先されたことと提起し、警察庁の担当者には過剰な警備の中止も求めた。

また、沖縄を管轄する陸上自衛隊第15旅団の旅団長らが慰霊の日に合わせて、沖縄戦を指揮した旧日本陸軍第32軍の牛島満司令官らが祀られる「黎明之塔」を参拝することを問題視し、中止を要請。さらに、同旅団のホームページに牛島司令官の辞世の句が掲載されていることを巡り、具志堅氏は抗議を込めて詠んだ琉歌を岸田首相へ提出するため、内閣府担当者に手渡した。